

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 21年 9 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地 (電話番号)	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94番地19 (電話)0948-42-7578		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 14 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	管理費 19,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	230 円	昼食 430 円
	夕食	440 円	おやつ 夕食代に含む 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	10 名	要介護4	2 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 86.9 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・稲築病院 ・西野病院 ・菊原クリニック ・いわみハートクリニック ・田川慈恵病院 ・有吉歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に、有料老人ホーム、デイサービスセンターと併設してグループホームけやきがある。理想を求めて造られたホームは、利用者の高齢化にも対応できるよう、すべてがゆったりとしたバリアフリーで、浴室はどのような状況でも入浴可能な造りになっている。身体機能の向上、維持をめざした機能訓練の設備も充実している。協力病院も隣接し、穏やかで安心して生活できる環境が整えられている。居室はどの部屋も明るく、利用者の状況に応じ温度、湿度、換気が調整されている。職員は「利用者第一」をモットーに利用者が「ここに来て良かった」と思えるように、常に尊厳を損なわないよう、自主性を尊重しながら支援している。地域の行事にも積極的に参加し、昼間常時開放された玄関には、近所の人々が立ち寄り利用者と会話を楽しむこともある。中学生の体験学習受け入れや、保育園児との交流は生活に変化や潤いを与え、利用者の若さと活気の源であり一番の楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はない。今回は「評価の意義の理解と活用」が課題として、工夫されることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が作成した自己評価票を職員が分担してチェックし、会議でまとめ完成させた。管理者は、自己評価、外部評価の意義を事前に職員に説明し、職員一人一人が分担して、作成することで、日頃のサービス内容の気づきの機会になり自覚を促すことにもつながるので、今後の取り組みに期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に一度、利用者家族、地域包括支援センター職員、市議会議員、民生委員をメンバーに開催している。ホームの状況報告や、ホームへの要望も積極的に聴いている。地域との交流を深める為の取り組みについてのメンバーからのアドバイスも多い。ホームで抱えている問題をこの会議で相談し、メンバーの力添えで解決に至ったことなども多く、運営推進会議をホームの運営、サービスの向上に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に一度の家族の来訪時に、ホームへの要望を聴くと共に、家族会でも積極的に意見、苦情などを聴いている。玄関には意見箱も設置している。市の介護相談員制度の活用、外部の公的苦情相談窓口の紹介など利用者、家族の要望、苦情が出やすいような取り組みをしているが、家族からの意見、苦情はあまり聴かれない。今後は、「お世話になっているホームに、要望や苦情は言いにくい」という家族の心情を考え、家族会では、自由に遠慮なく発言できるような雰囲気づくりへの取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し回覧板をまわしたり、地域の空き缶拾いに利用者と一緒に参加したり、積極的に地域との交流を図っている。中学生の体験学習の受け入れ、保育園児との交流、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への招待などを行なっている。また、玄関を開放し日常的に近隣の住民とのふれあいが出来るような取り組みをしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	利用者は、周囲とふれあいながら、尊厳を損なわれることなく、安心して家庭的な生活が送れることを理念の柱に置き、利用者が「このホームで生活してよかった。長生きしてよかった」と心から思えるよう、職員の心構えも含めて具体化したものをわかりやすい言葉で表した理念になっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を、常に利用者、家族、職員の目に触れるように玄関、ホーム内に掲示し、ミーティングでも確認している。年に一度ホームで開催される「ふれあい祭り」でも、参加者に理念を紹介するなど、理解を深める取り組みをしている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し回覧板を回したり、玄関を開放し、利用者や近隣住民が日常的にふれあいの機会を持つ等、地元の人々との交流を大切にしている。地域の活動にも積極的に参加し、中学生の体験学習の受け入れ、保育園児との交流、ボランティアの受け入れ、ホームの行事への招待など相互の交流を深めている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、各ユニットの管理者が作成し、会議で職員が話し合い、まとめ作り上げている。		自己評価票作成の意義、目的を事前に全員で確認し合い、理解した上で、職員一人一人が分担して作成することにより、日頃気づいていない事が見え、サービスの再確認になり、自覚を促すことにも繋がる、今後の取り組みを期待したい。
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に一度、利用者家族、地域包括支援センター職員、市議会議員、民生委員、をメンバーに開催している。ホームの現状や取り組みを報告すると共に、ホームへの意見を積極的に聴いている。ホームで開催する研修会、行事への参加も呼びかけ、理解を深める取り組みをしている。会議のメンバーの働きかけで、問題解決の場にもなっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	相談事や運営上の不明な点等、直接出向いてアドバイスを 受け、市の担当者との連携を密にし、問題解決を図って いる。市主催の講習会にも積極的に参加し、サービスの質 の向上に繋げている。市の介護相談派遣事業を活用し、 利用者、家族の相談に対応している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外 にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサー ビスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用	現在制度を活用している利用者はいないが、職員は外部 の研修に参加し、参加者は、資料を全職員に回覧し、伝達 講習を行ない、知識の共有を図っている。利用者や家族の 必要時には、いつでも説明できる体制である。		
		管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を 関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用で きるよう支援している			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月に一度の、家族の来訪時に利用者の様子を伝えると共 に、2ヶ月毎に「けやき便り」を発行し、ホームでの行事の様 子が一目でわかるように写真を添えて家族に伝えている。 また、状況の変化時はその都度すぐに報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金 銭管理、職員の異動等について、家族等に定期 的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議、家族会と家族の意見、苦情を出しやすい 場を設けると共に、家族の来訪時にも意見、要望を聴いて いる。市の介護相談員制度の活用、外部の公的苦情相談 窓口の紹介をし、意見、苦情が表出しやすいように配慮し ている。意見箱も設置しているが、家族の意見、要望は少 ない。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	同一法人内の配置換えや、離職を抑える取り組みをして いるが、離職がやむをえない場合は、利用者へのダメージを 最小限にとどめるよう、馴染みの関係ができるまで勤務の ローテーションを考えている。日頃から2つのユニット間の 職員の交流を密にするなどの取組みをしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員によ る支援を受けられるように、異動や離職を必要最 小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者 へのダメージを防ぐ配慮をしている			
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあ たっては性別や年齢などを理由に採用対象から 排除しないようにしている。また、事業所で働く職 員についても、その能力を發揮して生き生きと勤 務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障 されるよう配慮している	職員の採用は、一切の制限は設けていない。面接時に ホームの業務内容を詳しく説明し、見学して、状況を把握 した上で判断してもらうよう配慮している。定年後も嘱託とし て65歳まで定年前と同じ条件で働くことができ、産休も設け るなど経験、力が活かせるような取り組みがなされている。		
12	20	人権教育・啓発活動	理念の柱に利用者の尊厳を守ることを掲げ、定期的なミー ティングで、利用者に対し尊厳を損なうよう対応がなかった か振り返りをしている。人権研修に参加した職員は、伝達 講習をし、知識の共有をはかっている。		
		法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を 尊重するために、職員などに対する人権を尊重 するために、職員などに対する人権教育、啓発 活動にとりこんでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、希望者には、参加しやすい様に勤務ローテーションに配慮している。隣接するクリニックの医師に、感染症の予防法、対応法などの講義を依頼するなどホーム内、同一法人内で学ぶ機会も多い。資格取得を目指している職員には、休暇など勤務体制も考慮している。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、職員は、研修会や意見交換会に交代で参加している。法人内のグループホーム間の交流を密にし、お互いに工夫している点、長所等は素早く取り入れ、サービスに活かしている。近隣のグループホームとのネットワークづくりも視野に活動している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、事前の見学を勧めると共に、ホームからも説明に出向き信頼関係を築くよう努めている。入居後は利用者の不安を和らげる為、密に関わりを持ち早くホームに馴染めるような配慮をしている。利用者のみでなく、家族との関係も大切に気軽に話せる雰囲気作りにも力をいれている。		
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、同じ家族として支え合い、利用者の個性、興味を活かす取り組みをしている。梅干しも利用者に教わりながら手作りしている。料理の献立を一緒に考え、下ごしらえも一緒にし、共に過ごす時間を大切に和やかな関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を把握するために、言葉や表情の変化を見逃さないように、気づいたことは記録に残し全員が共有出来るようにしている。また、利用者同士の関わりから意向を把握することもあり、利用者のペースにあわせ、自己決定を優先し支援している。意向の把握が困難な時は家族に協力を求めることもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族会の記録、個別面談報告書、面会時の記録など利用者の状況を常に細かく把握し、記録したものを参考にして介護計画を立てている。2ヶ月毎の計画作成のためのミーティングを開き、職員の気づきも取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月毎に介護計画の見直しを実施し、利用者の状況に変化が見られたときは、その都度現状に即した介護計画に変更している。家族の情報も大切に取入れている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同一法人の介護付き有料老人ホーム、デイサービスセンターが隣接しており、利用者の状況に応じた対応が可能である。車椅子対応車での受診支援、機能訓練設備の充実、デイサービスよりの訪問リハビリ、入院時の支援など利用者の状況に応じ、きめ細かな支援がされている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診支援をしている。車椅子対応の車を使用し職員が付き添い、受診結果は家族に報告している。在宅診療を利用している利用者も多い。隣接して協力病院もあり適切な医療が受けられる体制が整っている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や、終末期の対応について早い段階から家族に説明し文書化して同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた時は、その都度、グループホームで出来る範囲を見極め、家族と相談しながら方針の共有を図っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員は、利用者の誇りを尊重することがすべての支援の基本と考え、誇りやプライバシーを損ねていないか常に振り返りながら支援している。利用者の自己決定を待ち、さり気なく声をかけている。記録類は鍵のかかる棚に保管し、利用者の写真を掲載したホーム便りは配布先を利用者家族に限定するなど、個人情報の取り扱いには細心の注意をはらっている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	54	日々のその人らしい暮らし	「家庭的な環境で普通の生活を」と理念に掲げ実践している。一日の基本的なスケジュールはあるが、起床、食事、入浴、就寝も利用者のペースを優先し、対応している。爪切り、裁縫用具も自由に使えるようにし、さりげなく安全の確保もしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	利用者と一緒にメニューを考え、下ごしらえをし、職員も一緒に食卓を囲んでいる。家庭での食事を基本に、利用者の自主性を尊重しながら食事の準備をしている。職員は、会話を楽しみながら、常に必要な支援をさり気なくしている。食卓の椅子は利用者が使いやすい、安全を考慮した物を使用し、食器も個別にする等細かい心配りがされている		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3回、曜日を決めているが、利用者の意向、体調を考慮し柔軟に対応し、毎日入浴している利用者もいる。現在入浴を拒否している利用者はいない。浴室は広く車椅子対応可能になっており、どんな状況でも入浴が楽しめるように配慮されている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	利用者一人ひとりの生活歴、興味なども参考に、自主性を尊重しながら料理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、レクリエーションの進行など職員と一緒にやっている。遠出の外出時は家族の協力も得て全員が参加できるよう配慮している。七夕祭りには、ボランティアの着付けによるゆかた姿で、全員が参加し、日々の暮らしを楽しめるよう工夫をしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホームの敷地が広く、玄関も開放されているので、戸外に出て自由に思い思いの時間を過ごせる環境にある。地域の祭りへの参加、劇団の催しへの参加など外出の機会を多く設けている。利用者の希望に沿って買い物、外出も個別に対応している。		利用者の高齢化と共に、外出も次第に難しい状況になりつつある。利用者が自然を肌で感じるができる状況を維持する為には、ボランティアの協力も必要不可欠になると思われる。運営推進会議等で課題として検討するなど、将来を見据えた取り組みが望まれる。
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関は鍵をかけていない。ドアに優しい音色の風鈴を取り付け、出入りが把握できるようにしている。職員は利用者とのふれあいを密にし、行動パターンを把握することで束縛することなく、安全を確保している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回夜間を想定した訓練を実施している。訓練後には、話し合いの場を持ち、皆がスムーズに動けるように確認し合っている。平屋造り。各ユニット毎に大きい玄関がある。廊下が端から端迄見渡せる直線になっている。居室から直接外に出られるなど、災害時も考慮した造りになっている。災害時の非常食、飲料水等の備蓄も完備されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の希望を考慮しながら、それぞれのユニット毎に職員が献立を考えている。栄養の偏りがないか、定期的に栄養士の指導を受けている。食事摂取量を毎回確認し、記録している。水分摂取に関しては、不足が陥らないよう意識して支援しているが記録としては残していない。		水分量が、一日を通して確保できているか、記録しておくことで情報が共有でき、高齢者におき易い脱水症状を未然に予防することにも繋がると思われる。取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地の中に建つホームは、静かで自然の光、風が通り抜ける造りになっている。どこも広いスペースが確保されトイレ、浴室は車椅子対応になっており利用者の状態にあった生活が確保されている。廊下、玄関脇には椅子が置かれ利用者が思い思いの時間を過ごせるようになっている。季節の花がさり気なく飾られ、利用者の作品や、イベント時の楽しそうな写真が飾られた廊下には手すりがつけられている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた馴染みの家具が置かれた居室は、全室南向きで、どの部屋も明るく風通しがよい。温度、湿度、換気は利用者の状態や希望により調整されている。どの部屋にもナースコールが取り付けられ、洋室すべてが電動ベッドで、身体機能低下にも対応できるようになっている。快適で安全な生活が過ごせる様に配慮された居室になっている。		